

熊本市英語教育改善プラン

実施内容

(1) 英語教育の状況を踏まえた目標

1 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合について

①目標指標

2022年度までに、授業における生徒の英語による言語活動の状況が50%以上である教員の割合を、中学校は100%、高校は60%にする。

②現状

新学習指導要領がめざす英語による言語活動を中心とした授業づくりの認識が高まっているが、教員の日本語による説明時間が長い授業が依然としてある。

中学校	2018		2019		2020		2021		2022	
	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成
	80%	72.8%	80%	71.0%	80%		90%	62.4%	100%	

高校	2018		2019		2020		2021		2022	
	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成
	50%	14%	50%	30.2%	50%		60%	37.1%	60%	

2 パフォーマンステストの実施状況

①目標指標

ALT等を効果的に活用しながら、2022年度までに中学校は学期に2回以上、高校は学期に1回以上、ライティングテスト、スピーキングテストをそれぞれ両方実施する学校を100%にする。

②現状

- ・研修等を通じてパフォーマンス評価の重要性に対する認識が高まり、回数は増えてはいるが、新型コロナウイルスの影響でスピーキングテストの実施を見合わせた学校もある。
- ・即興性を見るようなスピーキングテスト、目的・場面・状況を設定したライティングテストになっているか等、評価の妥当性や評価規準等を検証することが課題である。

【スピーキングテスト】

中学校	2018		2019		2020		2021		2022	
	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成
	3回	2.4回	3回	3.8回	4回		5回	3.4回	6回	

高校	2018		2019		2020		2021		2022	
	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成
	3回	0回	3回	1回	3回		4回	1.3回	5回	

*コミュニケーション英語I

【ライティングテスト】

中学校	2018		2019		2020		2021		2022	
	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成
	3回	1.7回	3回	3.0回	4回		5回	2.3回	6回	

高校	2018		2019		2020		2021		2022	
	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成
	3回	0.3回	3回	2回	3回		4回	2.3回	5回	

*コミュニケーション英語I

3 学習到達目標の整備状況について

①目標指標

2022年度までに小中高ともに、設定率、公表率、達成状況の把握率を100%にする。

②現状

- ・研修会を通じて、学習到達目標の必要性の意識が高まり、小中高ともに、多くの学校で設定、公表、達成状況の把握をしている。

小学校	2018		2019		2020		2021		2022	
	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成
設定					50%		75%	100%	100%	
公表					50%		75%	98.9%	100%	
達成状況把握					50%		75%	100%	100%	

中学校	2018		2019		2020		2021		2022	
	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成
設定	100%	88.1%	100%	95.2%	100%		100%	100%	100%	
公表	50%	4.8%	30%	64.3%	70%		85%	100%	100%	
達成状況把握	100%	33.3%	50%	61.9%	70%		85%	100%	100%	

高校	2018		2019		2020		2021		2022	
	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成
設定	100%	100%	100%	100%	100%		100%	100%	100%	
公表	66.6%	0%	33.3%	33.3%	100%		100%	66.7%	100%	
達成状況把握	100%	100%	100%	33.3%	100%		100%	66.7%	100%	

4 英語担当教員の授業における英語使用状況

①目標指標

2022年度までに授業における英語使用状況が50%以上である英語担当教員の割合を中学校は100%、高校は70%にする。

②現状

新学習指導要領がめざす英語による言語活動を中心とした授業づくりの認識が高まってきており、教師の英語での発話が増えている状況ではあるが、中学校は一昨年よりも割合が低くなっている。また、教員の日本語による説明や、言語材料への理解を深める活動が長い授業が依然としてあり、学年が上がるにつれその傾向が強くなっている。

中学校	2018		2019		2020		2021		2022	
	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成
	70%	72.8%	80%	70.6%	80%		90%	64.8%	100%	

高校	2018		2019		2020		2021		2022	
	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成
	50%	39.5%	50%	30.2%	50%		60%	37.1%	70%	

5 求められる英語力を有する英語担当教員の割合について

①目標指標

求められる英語力(CEFR B2以上)を有する教員の割合を、2022年度までに中学校50%以上、高校70%以上にする。

②現状

- ・高校は目標値を上回っているが、中学校は割合が年々低くなっており、目標値も下回っ

ている。

- ・授業での英語による言語活動を充実させる意味でも、教師の英語力向上は必要であるので、まずは生徒が理解できる英語を用いたコミュニケーションの場となるような授業を行うことを第一に考え、その延長線上に教師自身の英語力の向上を図る。

中学校	2018		2019		2020		2021		2022	
	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成
	35%	32.7%	35%	30.8%	35%		40%	23.6%	50%	

高校	2018		2019		2020		2021		2022	
	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成
	50%	50%	55%	64.7%	65%		65%	76.5%	70%	

6 生徒の英語力について

①目標指標

求められる英語力(中3生 CEFR A1 相当、高3生 CEFR A2 相当)を有する生徒の割合を2022年までに中3生60%以上、高3生50%以上とする。

②現状

- ・中学校は国の目標指標である50%を達成し、求められる英語力を有する生徒の割合は年々増えている。英検 IBA を2016年度から実施し、客観的なデータをもとに経年比較できたこと、特に中学卒業時の明確な目標指標に到達しているか全中3生に測定する機会が与えられたことにより、生徒や教師の意識付けが図られている。
- ・高校も国の目標指標である50%を達成している。今年度は英検 IBA の実施はなかったが、中学校教員対象の研修会に高校教員も参加することで、授業改善を図っている。

中3生	2018		2019		2020		2021		2022	
	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成
	55%	51.6%	55%	54.8%	55%		60%	56.1%	60%	

高3生	2018		2019		2020		2021		2022	
	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成
	50%	45.8%	50%	38.3%	50%		50%	53.6%	50%	

7 専科加配について

①目標指標

2025年度における小学校教員の新規採用者の50%以上が、国が示す一定の英語力を有した者となるようする。

②現状

- ・今年度(2021年度)は小学校の新規採用者119人のうち、国が示す一定の英語力を有する者が10人であり、全体の8.4%となり、目標を下回る結果となった。
- ・一定の英語力を有する志願者数の増加が課題である。

新規採用者に 占める割合	2020		2021		2022		2023		2024		2025	
	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成
	15.0%	10.6%	20.0%	8.4%	25.0%		30.0%		40.0%		50.0%	
人数	15	11	20	10	25		30		40		50	

(2) 目標を達成するための取組

○目標を達成するための取組

- 1 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合について
 - ・教育センターによる授業づくり支援訪問や、中学校及び高校教員を対象とした研修会等において、言語活動の充実を伝える。

- 2 パフォーマンステストの実施状況
 - ・外国語学習を通して育成を目指す資質・能力を高めるためには、実際のコミュニケーション場面を増やすことが大切であることを研修等で共有することで、パフォーマンス評価による生徒の英語力の評価機会の充実を図るとともに評価の妥当性について意見交換及び情報共有を行う。
 - ・熊本市版スピーキングテストの効果的な活用を呼びかける。

- 3 学習到達目標の整備状況について
 - ・学習到達目標（Can-Do リスト）が、ゴール（目標）の共有と、学習評価に活用することができることを、授業づくり支援訪問や研修等で具体例を示しながら伝えていき、積極的な活用を引き続き推進する。
 - ・小中連携の機会に互いの Can-Do リストを共有するよう研修などを通して周知する。
- 4 英語担当教員の授業における英語使用状況
 - ・中学校、高校ともに、授業は「英語で行うことを基本とする」と新学習指導要領でも明記されており、小学校外国語教育における早期化、教科化や英語使用のモデルとしての役割の重要性を踏まえ、英語教育の高度化を目指し、授業における英語使用の割合を上昇させることを再度研修等で強調する。

- 5 求められる英語力を有する英語担当教員の割合について
 - ・各研修会等において、教師自身の英語力向上の必要性や無料で有益な学習サイト等を周知するとともに、SD 活性化支援研修等で、英語で授業を行う力をつけるフォローをする。
 - ・文科省により予定されているオンライン研修を活用し、英語力向上を図る。
 - ・各種検定試験受験時の検定料助成制度の周知を図る。

- 6 生徒の英語力について
 - ・熊本市学力調査や英検 IBA の結果を分析し、中学校卒業時の英語力を目指した授業改善を図るよう指導する。
 - ・外部試験等も有効に活用しながら、生徒の英語力が適切に評価できるよう、新学習指導要領が示す目標、その実現に向けた指導、そして評価の一体化を図るための研修を実施する。
 - ・英検 IBA の結果分析を基に、生徒自身が課題を把握し、無料の学習ソフト スタディギア for EIKEN の有効活用を生徒に促しながら、主体的かつ計画的な家庭学習につなぐ。

- 7 専科加配について
 - ・一定の英語力を有する志願者数を増やすために、次年度も引き続き一定の英語力について取得見込みの者まで加点対象とすることで、志願者の拡充を図る。

○研修の体系と内容の具体

次の内容を実施し、教員の英語指導力向上を目指す。

【小学校】

①ブラッシュアップ・イングリッシュセミナーの開催（半日）

対象者：小学校外国語主任及び外国語専科教員悉皆（100人）

内容：学習指導要領がめざす外国語教育（評価を含む）に対する理解を深め、指導力向上につながる講話と演習

②小学校外国語オンライン研修

対象者：新規外国語専科教員及び希望する小学校教員

内容：指導力向上につながる動画視聴及び、英会話

【中学校】

③パワーアップ・イングリッシュセミナーの開催（1日）

対象者：中学校英語教員悉皆（150人）

内容：パフォーマンステストや定期テストのさらなる改善、指導と評価の一体化に向けた講話と演習

④中学校英語オンライン研修

対象者：希望する中学校教員

内容：指導力向上につながる動画視聴及び、演習

⑤外部試験結果分析検討会の開催

対象者：中学校英語科教員

内容：英検 IBA の結果分析をもとに、授業改善につながる助言を行う。

【小・中学校】

⑥教育課程研究協議会（半日ずつ）

対象者：小学校外国語主任、中学校英語教員（※小中各校1人参加）

内容：新学習指導要領の趣旨を踏まえた指導法、実践発表

⑦研究員活動

対象者：教育センター研究員（小中学校教員）

内容：新学習指導要領に沿った英語教育についての研究、年間3回以上の研究授業

【高等学校】

⑧小中学校の公開授業や研修会への積極的な参加

対象者：高等学校英語教員

内容：小中学校で行われる英語の公開授業や研修会に参加し、互いの共通理解を深める。
特に、中学校での学習内容について理解を深め、今後の指導改善に生かす。

⑨高校英語オンライン・オフライン研修

対象者：希望する高校教員

内容：指導力向上につながる動画視聴及び、演習

【全校種】

⑩模範授業の実施

対象者：小学校・特別支援学校教員、中・高等学校英語教員

内容：推進リーダーや研究員等による授業の参観や、ビデオでの視聴を通して、指導法等の改善に資する。

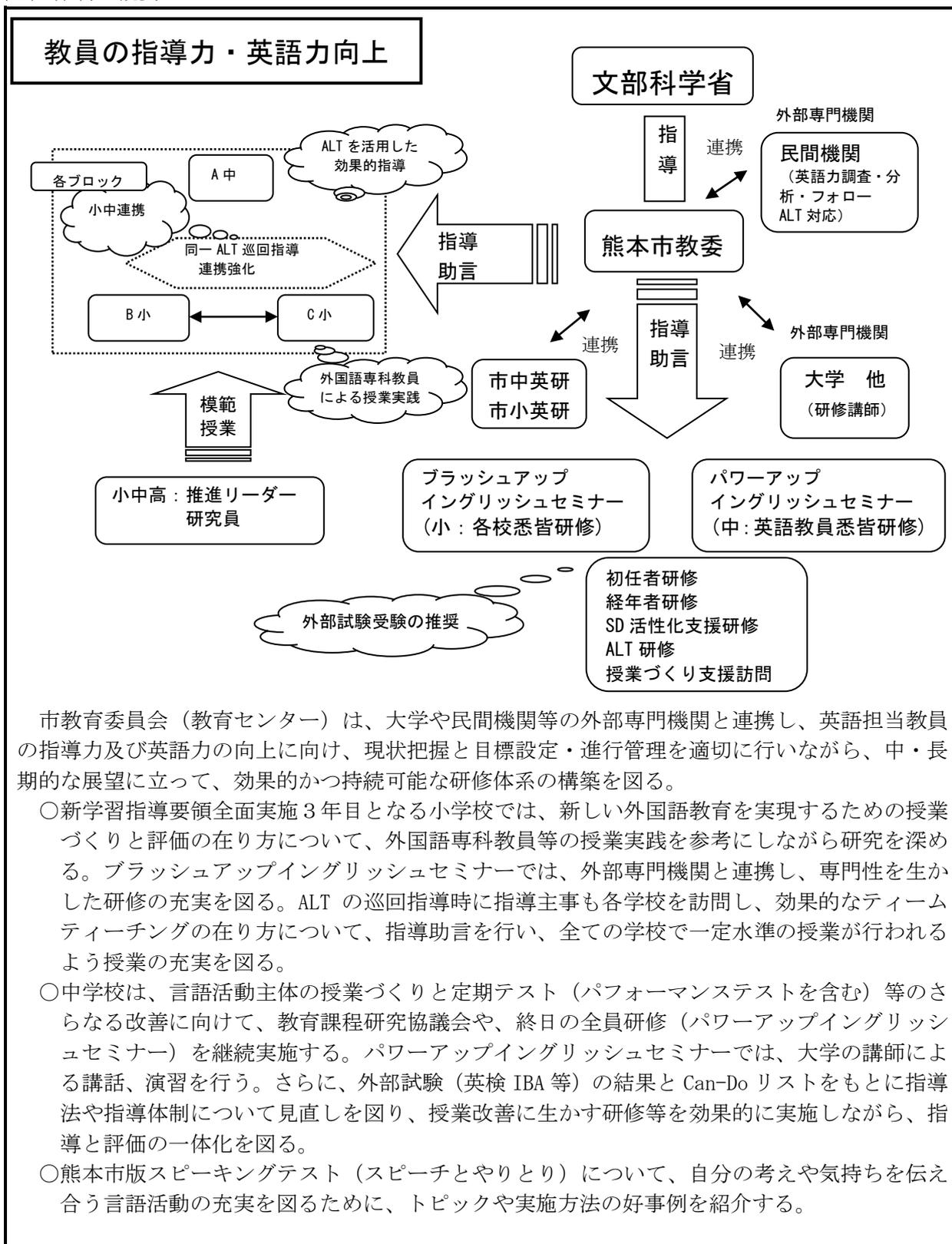
⑪SD 活性化支援研修の実施

対象者：・小学校・特別支援学校教員、中・高等学校英語教員

・教師塾「きらり」（教職経験4年目～15年目）塾生並びに小中高英語教員

内容：主体的・対話的で深い学びの授業づくり、英語で授業を行うための英語力向上、授業づくりの助言

(3) 体制の概要



市教育委員会（教育センター）は、大学や民間機関等の外部専門機関と連携し、英語担当教員の指導力及び英語力の向上に向け、現状把握と目標設定・進行管理を適切に行いながら、中・長期的な展望に立って、効果的かつ持続可能な研修体系の構築を図る。

- 新学習指導要領全面実施 3 年目となる小学校では、新しい外国語教育を実現するための授業づくりと評価の在り方について、外国語専科教員等の授業実践を参考にしながら研究を深める。ブラッシュアップイングリッシュセミナーでは、外部専門機関と連携し、専門性を生かした研修の充実を図る。ALT の巡回指導時に指導主事も各学校を訪問し、効果的なチームティーチングの在り方について、指導助言を行い、全ての学校で一定水準の授業が行われるよう授業の充実を図る。
- 中学校は、言語活動主体の授業づくりと定期テスト（パフォーマンステストを含む）等のさらなる改善に向けて、教育課程研究協議会や、終日の全員研修（パワーアップイングリッシュセミナー）を継続実施する。パワーアップイングリッシュセミナーでは、大学の講師による講話、演習を行う。さらに、外部試験（英検 IBA 等）の結果と Can-Do リストをもとに指導法や指導体制について見直しを図り、授業改善に生かす研修等を効果的に実施しながら、指導と評価の一体化を図る。
- 熊本市版スピーキングテスト（スピーチとやりとり）について、自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実を図るために、トピックや実施方法の好事例を紹介する。

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月	・専科指導教員連絡協議会① (4/4)	
5月		
6月	・第1回イングリッシュ・デイ実行委員会 (6/9) ・SD活性化支援研修 (オンライン第1回 Talk Room)	
7月	・第2回イングリッシュ・デイ実行委員会 (7/4) ・専科指導教員連絡協議会② ・中学校教育課程研究協議会 (7/27) ・SD活性化支援研修 (オンライン第2回 Talk Room)	大学教授等の指導・助言
8月	・小学校教育課程研究協議会 (8/1) ・第3回イングリッシュ・デイ実行委員会 (8/3) ・パワーアップ・イングリッシュセミナー (8/4) ・イングリッシュ・デイ (8/17, 18) ・ブラッシュアップ・イングリッシュセミナー (8/24) ・SD活性化支援研修 (オンライン第3回 Talk Room)	大学教授等の指導・助言
9月	・SD活性化支援研修 (オンライン第4回 Talk Room)	
10月	・英検 IBA (10月中旬～下旬全中学校で実施) ・SD活性化支援研修 (オンライン第5回 Talk Room)	
11月	・ALT 指導力等向上研修 (11/24, 25) ・SD活性化支援研修 (オンライン第6回 Talk Room)	
12月	・R4 英語教育実施状況調査 ・専科指導教員連絡協議会③ ・SD活性化支援研修 (オンライン第7回 Talk Room)	
1月	・SD活性化支援研修 (オンライン第8回 Talk Room)	
2月	・英検 IBA 結果分析研修会 ・SD活性化支援研修 (オンライン第9回 Talk Room)	民間機関の指導・助言
3月	・事業報告書作成、提出 ・専科指導教員連絡協議会④	
【その他の取組】		

